5分で読める！

豊田市の決算報告
～令和７(2025)年度～

Child Friendly Cities Initiative | unicef for every child

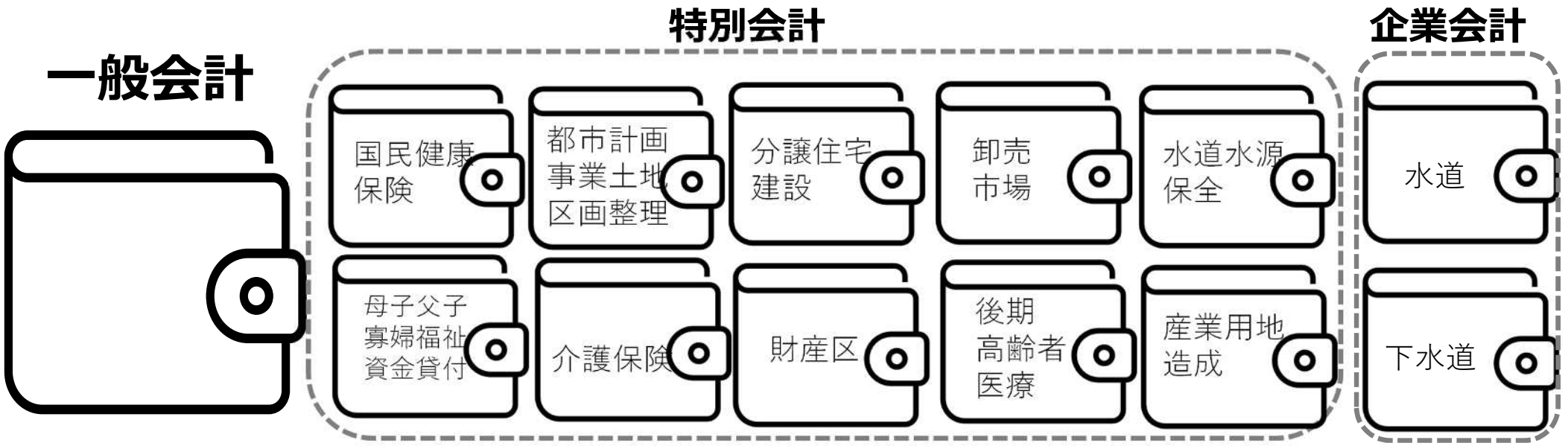
1　決算は収入と支出の実績を明らかにするもの

決算とは、1年間の収入（入ったお金）と支出（使ったお金）を整理し、その結果を明らかにすることです。

市の決算では、税金などの収入をどのように使って、市民や地域のための取組を行ったのかをまとめ、明らかにします。

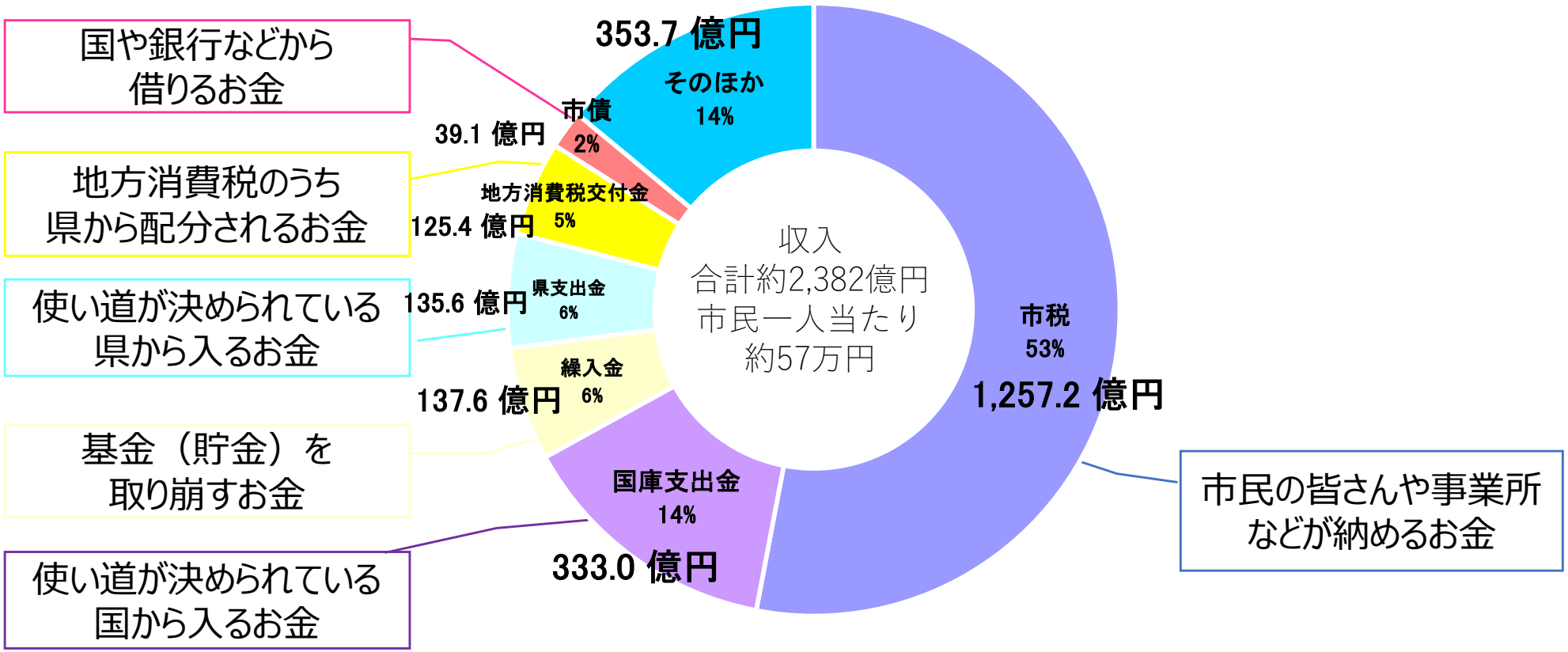
2　豊田市の会計（お財布）は13種類

市のお金は、**目的や使い道**によって会計（お財布）を分けて管理しています。その中でも、市民全体に関わる基本的な行政サービスにかかるお金をまとめた会計が**「一般会計」**です。
そのほか、介護保険など特定の事業に使う**「特別会計」**、
上下水道料金収入等で運営する**「企業会計」**があります。



この資料では、豊田市の**「一般会計」**を中心に紹介します。

3　一般会計の収入は2,382億円



最も多い収入は「市税」の1,257.2億で、全体の53%でした。
「市税」は、市民のみなさんが納めた「個人市民税（345.8億円）」や、市内に事業所がある法人が納めた「法人市民税（292.3億円）」、市内に土地や建物などを持っている人が納めた「固定資産税（452.7億円）」などです。

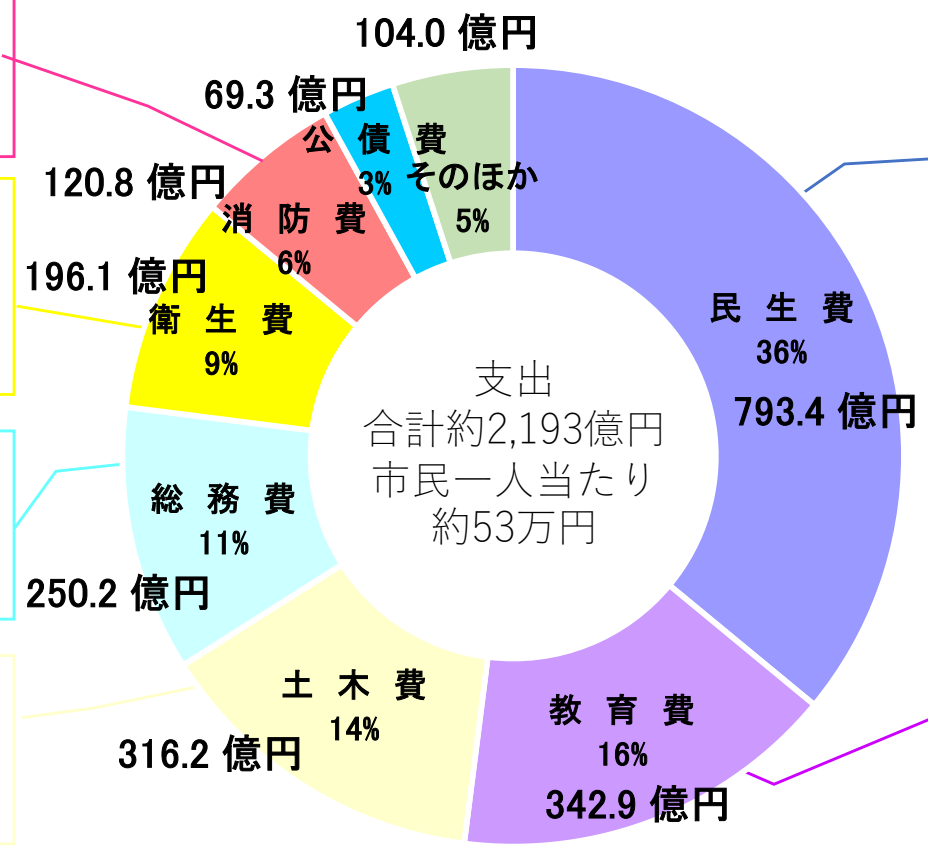
4　一般会計の支出は2,193億円

災害対策、被害軽減などのためのお金

病気の予防、ごみ処理、環境を守るためのお金

地域振興や庁舎管理、選挙などのお金

道路や公園などを整備するためのお金



高齢者や障がいのある人、子育てなどを支えるためのお金

学校の整備、スポーツや文化などを盛んにするためのお金

支出の大きかった項目は、次のページから紹介します。
令和７年度は、収入2,382億円、支出2,193億円で差し引き189億円でした。差し引きで生まれたお金（黒字分）は、翌年度の事業や将来のためのまちづくりに活用します。

5　民生費（793.4億円）の特徴

高齢者や障がいのある人、子育てなどを支えるための民生費で、決算額が大きい上位５つは以下のとおりです。

順位	内容	決算額	比率
1	児童手当給付費	94.1億円	11.9%
2	教育・保育給付費	63.9億円	8.0%
3	障がい者介護給付費	61.4億円	7.7%
4	障がい者訓練等給付費	43.1億円	5.4%
5	療養給付費負担金	40.7億円	5.1%

特徴!

児童手当給付費

家庭生活の安定及び次世代を担うこどもの健全育成と福祉の向上をはかるため、所得制限を撤廃し、高校生年代への支給期間延長及び第３子以降の支給額の拡充をした児童手当を引き続き支給しました。



6　教育費（342.9億円）の特徴

学校の整備、スポーツや文化などを盛んにするための教育費で、決算額が大きい上位５つは以下のとおりです。

順位	内容	決算額	比率
1	ＧＩＧＡスクール構想推進事業費	31.4億円	9.2%
2	体育館等暑さ対策費	25.8億円	7.5%
3	中央公園費	19.0億円	5.5%
4	学校給食協会委託費	16.5億円	4.8%
5	文化振興財団運営費補助金	15.6億円	4.5%

特徴!

GIGAスクール構想推進事業費

児童生徒一人ひとりに応じた学習と協働学習の充実のために導入しているタブレット端末を更新**しました。また児童生徒の更なる学力向上のため、引き続きデジタルドリル教材を活用しました。**



7　土木費（316.2億円）の特徴

道路や公園などを整備する土木費で、
決算額が大きい上位５つは以下のとおりです。

順位	内容	決算額	比率
1	名鉄三河線若林駅付近連続立体交差事業	37.0億円	11.7%
2	都心環境計画推進費	27.8億円	8.8%
3	下水道事業負担金	24.1億円	7.6%
4	道路修繕費	23.3億円	7.4%
5	公園維持管理費	12.5億円	3.9%

特徴!

都心環境計画推進費

魅力的な駅前広場の整備と利用者の安全・安心を確保するため、豊田市駅西口ペデストリアンデッキの耐震補強工事や東駅前広場整備工事等を実施しました。



8　総務費（250.2億円）の特徴

地域振興や庁舎管理、選挙などに使う総務費で、決算額が大きい上位５つは以下のとおりです。

順位	内容	決算額	比率
1	財政調整基金積立金	44.0億円	17.6%
2	庁舎等整備費	9.5億円	3.8%
3	職員退職手当	8.0億円	3.2%
4	情報システム基盤費	8.0億円	3.2%
5	庁舎管理費	6.9億円	2.8%

特徴!

庁舎等整備費・庁舎管理費

市役所庁舎の長寿命化及び機能維持を図るため、老朽化した設備等の改修・更新工事を実施しました。また、来庁者が快適に待ち時間を過ごせるよう、市役所南庁舎１階の待合スペースを整備しました。



9　衛生費（196.1億円）の特徴

病気の予防、ごみ処理、環境を守るための衛生費で、決算額が大きい上位５つは以下のとおりです。

順位	内容	決算額	比率
1	渡刈クリーンセンター費	47.1億円	24.0%
2	予防接種費	17.0億円	8.7%
3	豊田地域医療センター施設等整備費	15.1億円	7.7%
4	ごみ収集事業費	10.8億円	5.5%
5	水道事業補助金	9.0億円	4.6%

特徴!

豊田地域医療センター施設等整備費

現行電子カルテシステムの老朽化への対応や医療DXの推進を図るため、電子カルテシステム及び関連システムの更新を実施しました。



１０　消防費（120.8億円）の特徴

災害対策、被害軽減などのための消防費で、決算額が大きい上位５つは以下のとおりです。

順位	内容	決算額	比率
1	通信施設整備費	37.9億円	31.3%
2	消防車両整備費	5.4億円	4.5%
3	通信機器管理費	5.0億円	4.1%
4	防災設備費	4.3億円	3.6%
5	消防庁舎営繕費	1.5億円	1.3%

特徴!

通信施設整備費

市民の安全･安心な暮らしを24時間365日守るため、高機能消防指令システム及び消防救急デジタル無線を更新し、令和８年３月に運用開始しました。



１１　第９次総合計画がスタート

令和７年度から、**第９次総合計画**がスタートしました。
将来像**「つながる　つくる　暮らし楽しむまち・とよた」**の実現を目指し、**「ミライ実現戦略2030」**で掲げる５つの取組目標の達成に向け、重点的に施策を推進しました。

① こどもが多様な生き方・暮らし方を選択できる
② 誰もがつながり合いの中で安心して暮らすことができる
③ 産業中枢都市として深化し続ける
④ 将来を展望した都市環境の形成を進める
⑤ 脱炭素社会の実現に挑戦する

一方で、法人市民税などの歳入減少に対し、基金や市債を適切に活用し、**将来に向けた財源の確保と健全な財政運営の両立**を図りました。

１２　収入と支出のバランスを保った財政運営

令和４年度は…

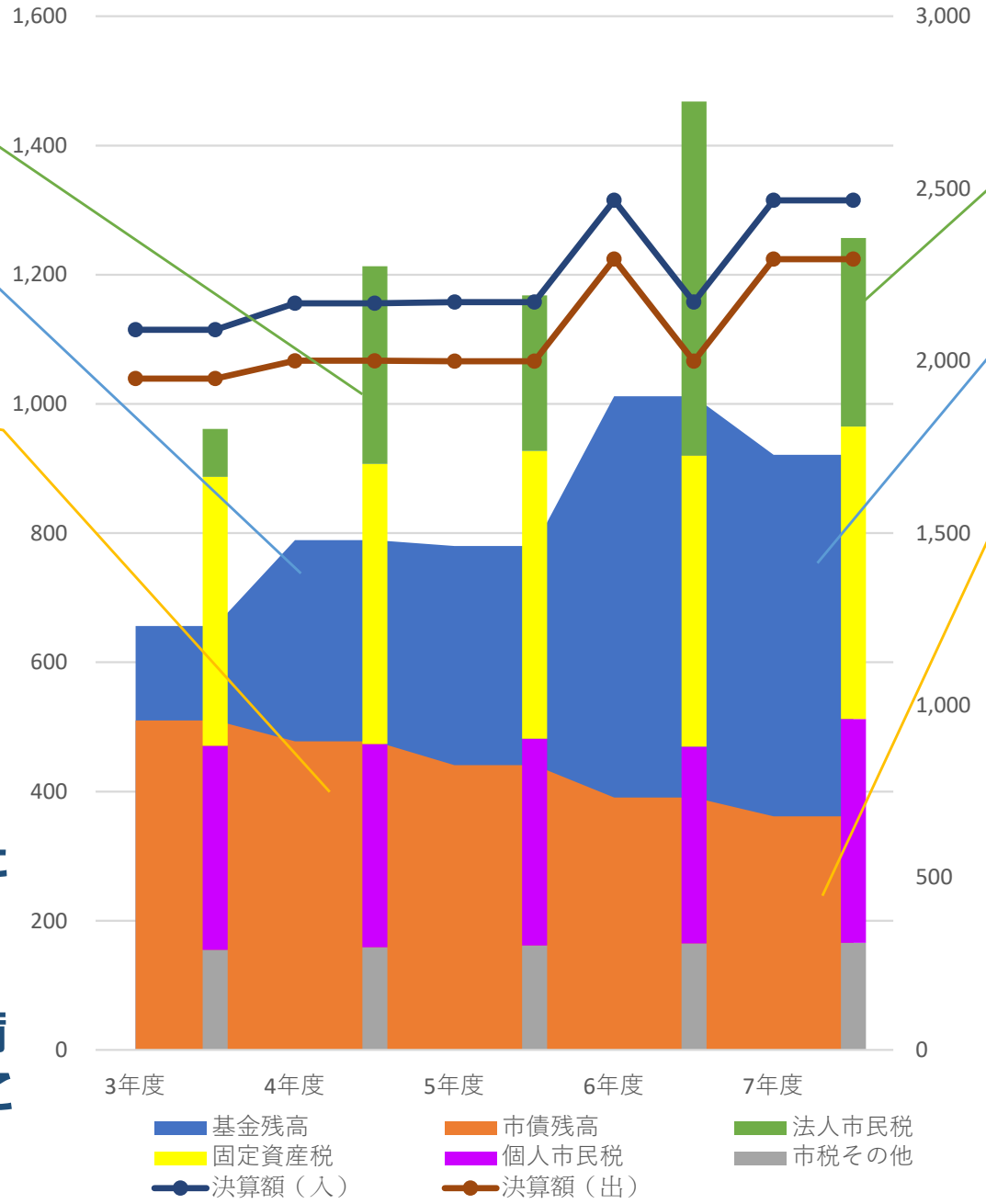
市税収入が**増**

基金残高が**増**

市債残高が**減**

つまり…

市税が増えた分、市債残高を減らし、事業の財源確保のために基金への積立てを行い、後年度の事業の着実な推進に備えた年だった、ということが読み取れます。



令和７年度は…

市税収入が**減**

基金残高が**減**

市債残高が**横ばい**

つまり…

令和６年度と同程度の予算規模を確保するため、市税が減った分を市債に頼らず、基金を取り崩して財政運営を行った、ということが読み取れます。

１３　令和７年度のまとめと今後に向けて

令和７年度は、「ミライ実現戦略２０３０」に掲げる取組を推進するとともに、市民生活の「安全・安心」を確保する取組や将来を見据えた投資などにより、収入と支出のバランスを保ちながら、第９次総合計画の施策を着実に実施しました。

一方で、豊田市は税収の動きに影響を受けやすい特徴があるため、将来の支出や収入の変化を見据えて、基金を計画的に活用していくことが重要です。

社会や経済の環境が大きく変わる中でも、これまで築いてきた安定した財政基盤を生かし、引き続き第９次総合計画を着実に推進します。

予算執行実績報告書はこちらからご覧ください

https://www.city.toyota.aichi.jp/shisei/yosan/1004779.html